

八重桜の引退相撲 (下氏家町)



八重桜の曾孫 (進介さん) の絵

下氏家の殿村に、手鹿平作さんと言うこの辺の草相撲界では有名な相撲取りが住んでいました。手鹿平作さんは、身長一八〇センチ近く、体重は九十キロ位の、がっちりした体格で、昭和の初めには、八重桜の四股名をもらいました。その頃各地にあった常例相撲には、近くは小曽原、西山、日野山、四ヶ浦、金津、丸岡等へ、遠方では加賀、能登、富山方面までも必ず招待される程の力士で

した。

昭和十一年十月十日、秋晴れの日のことです。

「東、八重桜。西、若緑。」

行司の力士を呼び出す声が辺り一面に、高々と響き渡りました。

今日は、下氏家の手鹿平作さんが、八重桜を引退して、鯖江山三代目を引き継ぐ襲名披露のあげ

相撲の日なのです。(鯖江山とは鯖江を中心とした相撲界をまとめる親方に、つけられた名前です)

下氏家、殿村の一区画に、畑と三反程の田んぼを借りて、地元

の相撲取りたちが、何日も前から作った立派な土俵の周りは、入り切れない程の見物客でいっぱいになりました。

相撲が最高の娯楽だったその頃の人たちは、前

の日から仕事の段どりをして、当日は良い席を取るために、朝早くから出かけて来たのです。

「はよう(早く)来て良かったなあ。」

「ほや、もうちよっと遅いと、入られなんだわ。」

「ほやけど、ほんとによおけ（沢山）の人やな。」  
「ほんとか、こころ辺で、こんだけの人が集まつたの、見たことないわ。」

と、皆が口々に言う位の人の集まりです。  
広い会場は足の踏み場もない程ぎっしりつまっています。五千人位は集まったのではないかと云われています。

村中の子供から年寄りまでは言つに及ばず、大野、勝山、坂井、三國、織田、四箇浦、今庄、池田、敦賀等の遠方からも、大勢の相撲ファンが、手に手に重箱や一升びんをぶらさげて、今日の相撲を楽しみに集まつて来たのです。

重箱には、おにぎりや、油あげ、にしん、大根芋の煮え等、奥さんの心づくしのお弁当です。

「うらあ（私）、きんの（昨日）から、仕事が手につかんのやつて。こんなこと初めてや。」

「ほおやな、村中へのぼりが立ってるし、相撲取りさんは、遠い加賀や富山からも、よおけ来な

はつたつて言うでなあ。」

名古屋へ注文して染め上がったというのぼりに  
は、大きな字で、八重桜 その下には、寄付した  
人の名前が書かれていました。そして、東の方は  
下氏家から当田まで、西は下野田から石生谷まで、  
一間（一・ハメートル）置きに、ずっと並んだの  
ぼりは、それは見事なものでした。

また、この日集まった力士の中には、招待されて、遠くからやつて来た人もいくつかです。北陸三  
県の各地から、地方頭取（地方相撲をまとめる親  
方）が地元（じもと）の相撲取りたちを引き連れてきました。  
その時代のあげ相撲では、お互いに力士を招待  
し合っていたのです。

客席からは「御花」と言つて、封筒に入れた小  
銭が投げ込まれます。行司はそれを手に取り、  
「御花一封。様より八重桜丈に下さる。」

と読み上げ、本人に手渡すのです。人気のある力士には沢山投げ込まれ、立派な収入源となりまし

た。

また、土俵の四本柱の前に座っている親方たちの貫禄が、田舎相撲にはない迫力です。

引退相撲とあげ相撲をした力士に、地方頭取の資格が与えられると、土俵の四本柱の前に座って審判役を務めます。写真の四本柱の前に座っている四人の人がそれです。

客席の中では、相撲に熱が入り、勝負で言い争い、後には、酒を飲んだ勢いで、けんかをする者も出てきました。こんなけんかは、毎回、三、四件は必ずあったそうです。

しかし、こんなに華やかだった地方相撲も、ラジオ、テレビ等、近代娯楽の普及に押されて、昭和三十年代になって下火となり、鯖江山三代目八重桜の名前も、だんだん聞けなくなってしまうました。

今は、夏祭りの時等に催される子供角力だけがそのなごりとなっているようです。



参考

当時、や えさくら 鯖江周辺の相撲で活躍した人々

八重桜 なかいさむ (下氏家)

中緑 なかみどり (新出)

中勇 すきの もり (鯖江)

越ノ森 こしの もり (東鯖江)

杉ノ森 うしが たに (杉本)

清水川 しみずがわ (西鯖江)

牛ヶ谷 かういさみ (吉江)

東川 あすまがわ (東鯖江)

川勇 よこ えがわ (川島)

清水岩 しみずいわ (鯖江)

横江川 よこえがわ (横越)

若柳 わかやなぎ (糺)

小勇 こいさみ (長泉寺)

若千鳥 わかちどり (二丁掛)

若緑 わかみどり (下野田)

川勇 かわいさみ (川去)

熊森 くまのもり (和田)

都石 みやこいし (糺)

若柳 わかやなぎ (横江)

都竹 みやこたけ (糺)

注 四股名 しこな

相撲の力士の呼び名 すもう りきし よびな

注 あげ相撲 すもう

世間一般に名前が知れ渡った出世 せけんいっぱん なまえ し わた しりっせ

披露の相撲 ひるい すもう